

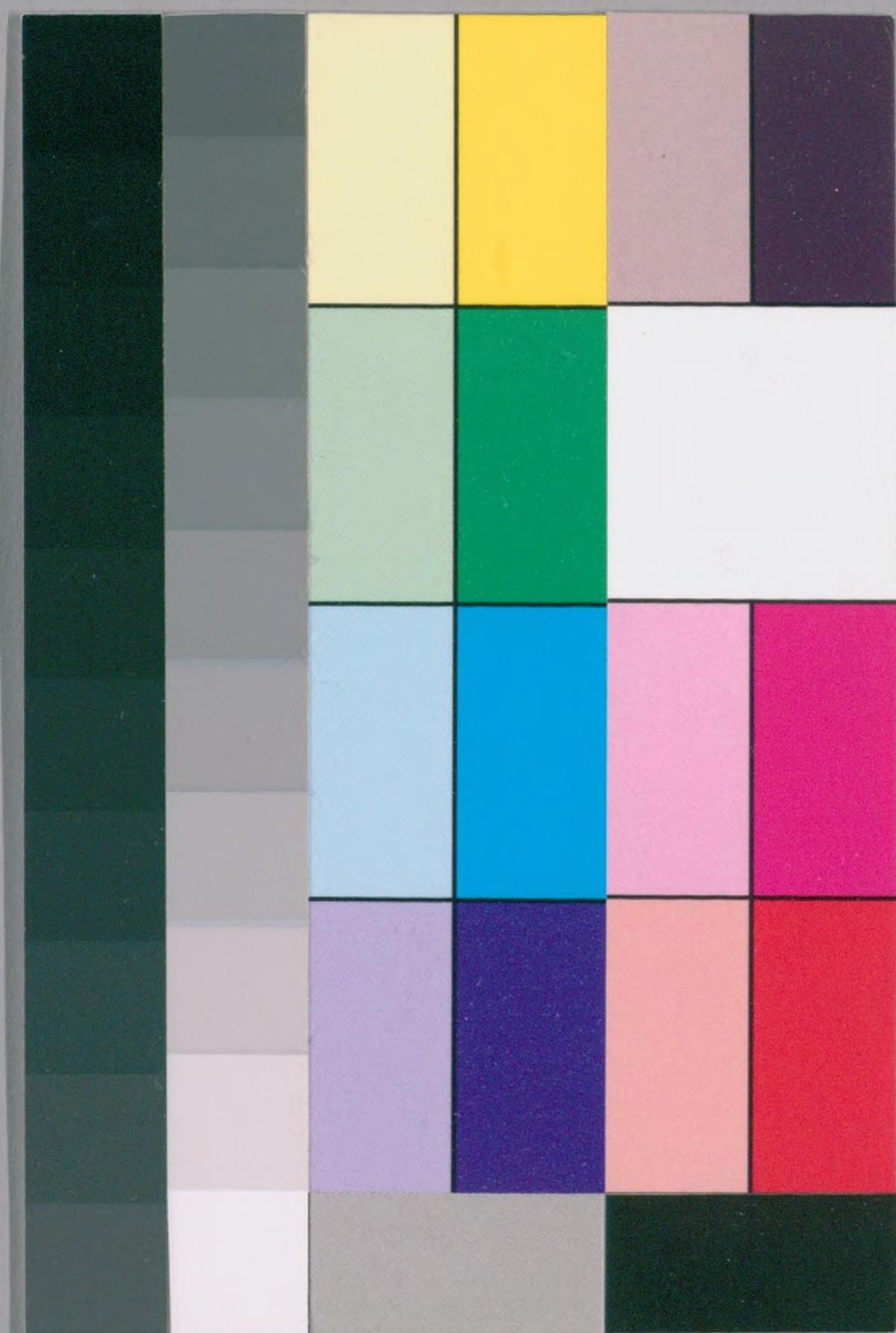
續膝栗毛三編

三

120
43
53

續膝栗毛

ヤ 423



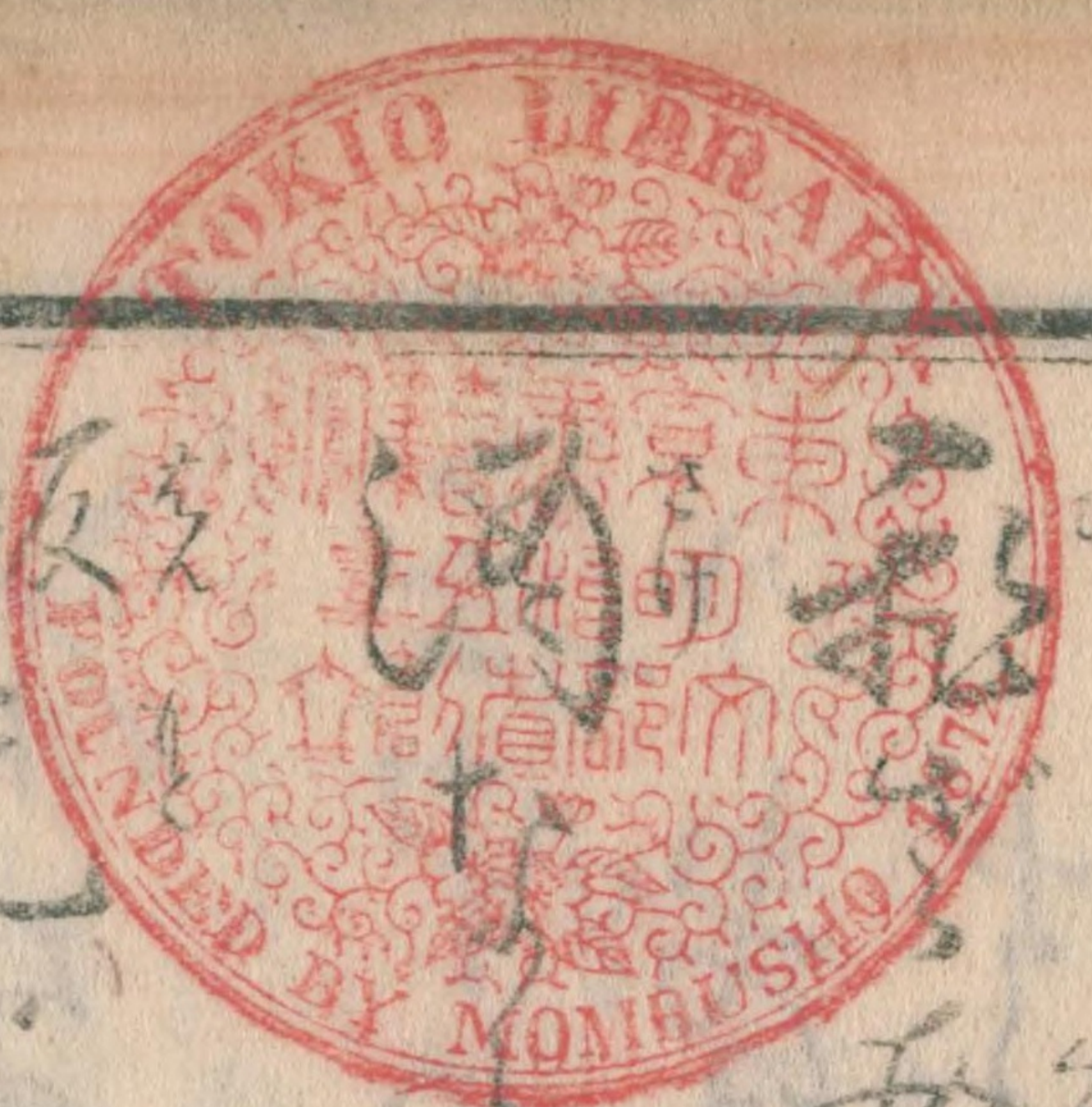
120
43
53

東 京 圖 書 館

四	九	〇	二	小	和 書 門
三	一	二	六	説	
冊	號	架	函	類	

續 膝栗毛 三編

上



木曾
街道

續 膝栗毛 二

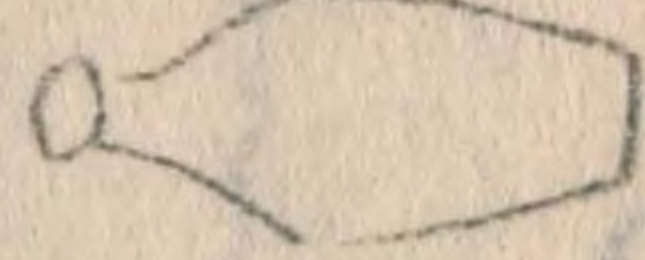
明細 叙年交換

赤毛の楽屋を覗いた



河

六



智恵をば

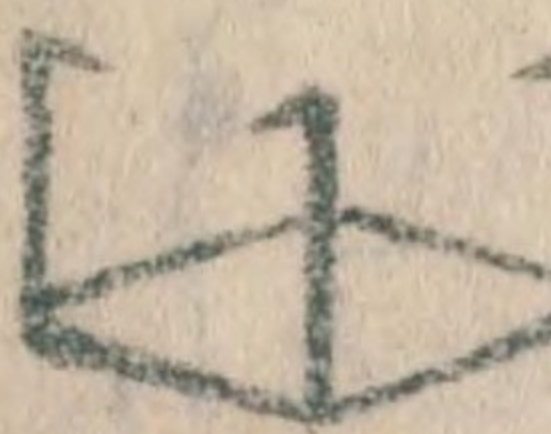
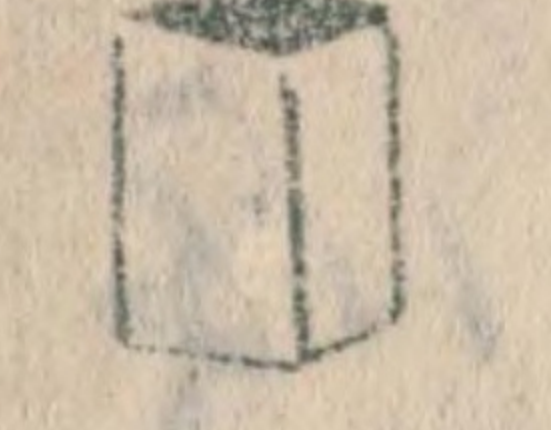


元 毎 日




持たせて

あつた

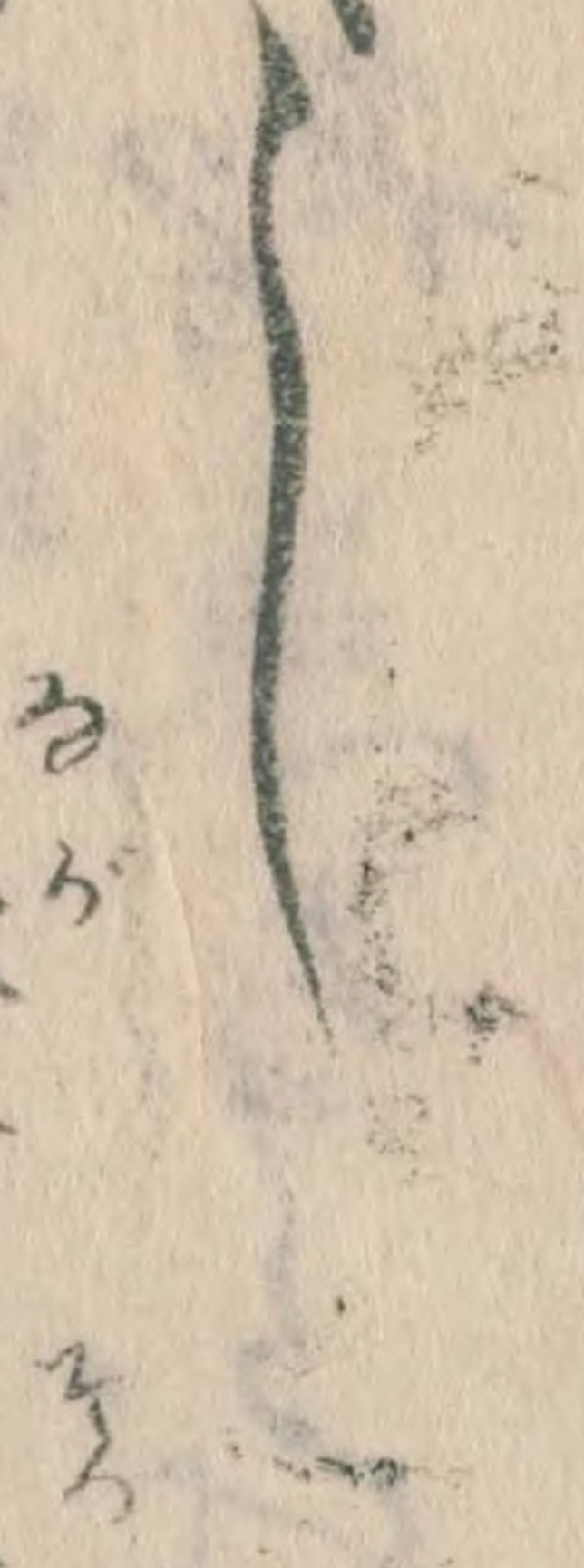


十六



しきるる しき 鳴呼 

茶 ^{ちや} ちま ^{ちま} の 邪 維 昔 久 化

壬申の心 

あまのり乃以よる長ま 及 菫の親に
す 例の化多 ^{まけ} けくま

見 流

木曾 街道 續 膝栗毛 三編上卷

東都 十返舎一九著

笑ひの中ふ又と研とひへぐらと昔のまじやりのに
れさすれる清代のありがさる。一腰の服指さる。接ぬ
かうふとほ免をうひ。生碎も本性送つた。まをねれを
せこれバ往來の乞食 飛りのふあふ 菜まひもあく。
大道よあげやまこらんて。うの 軒く世の中。十早振
神代くら後つひ。人牙巾借も。小豆餅ふけて上れば



とてのの工よは砂糖くけてと氏神中紅の古打あひ。
陣や湖水をける山王の神輿入血でんごまは接境
う。熊坂か物見の松も各のを残りたる居奉の赤玉
馬の赤系も妙茶ありと。おんうゆるの死とよで
考つげ人のご縁の本様よ是曳の山園しと。
朝のよの本曾街道をゆる。今や東越の海りる
ふふ。孫江帝を湯とて八八。播州路よりさるぐり
尼が崎くら。神塚のこしとんて山寄街をぞ

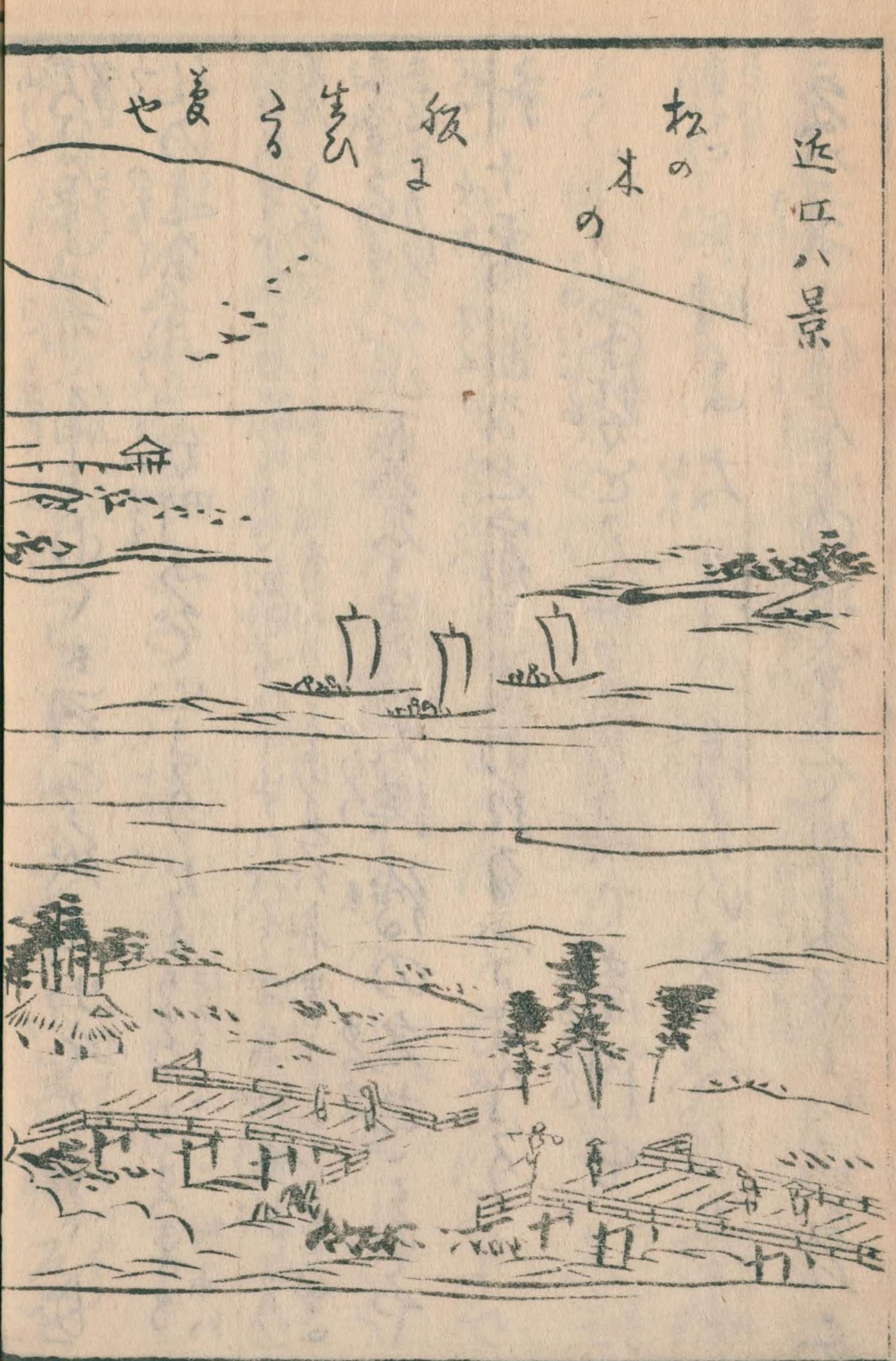
伏見よ寄宿。あくまらら紙立出てなや、も
札の辻ある追分町みぞ出よりなる
び友人言どまのまらりちをであふかーとれば今年ハ故前
をんけうめりのところ信者ありかとのまが有界してらるる
おるるういごういふい多よあハ大津繪の名お。とてや
針十番の監るど家ぶよあ死るよんをんころ
予勢とん世よあぶて商内由
時よ大津の得力のあるべ
まの京と伏見との追分まで。往來旅の取あんど





十返舎

見人かきの灰の石の禰子
 伊吉



近江八景

松の本の
 飯子
 生かす
 養也





五片舎
半九

乃阿

井

乃阿

乃阿

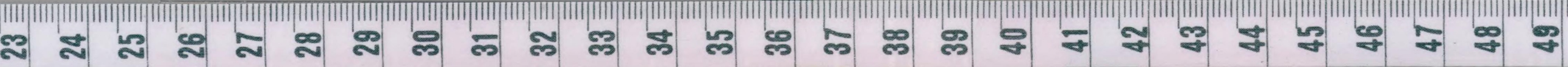
坂母

乃阿



さうゆの「あらめやく」なるもの来たさんせト
てほめ名の方を
方とあるものうけてまのりゆくほめとあるは
うたまでいめとくらぶとくしくして驚くうある。こゝろをいふて
たうと移る「今」の「あつらひ」を「あつらひ」おめ入
ゆゑさ。かの女めとらやほのてぬる「おめ入」でも
この亭主めが。ほまうんでけんうるあう。葉をみる
「おめ入」今小ちんあめが来たうらさういふら。こゝろ
女房かあめとさうぶら。あんでゆさういふ「あつらひ」
おこるうてぬるふ遠くひの移くと来た「おめ入」
白眼で

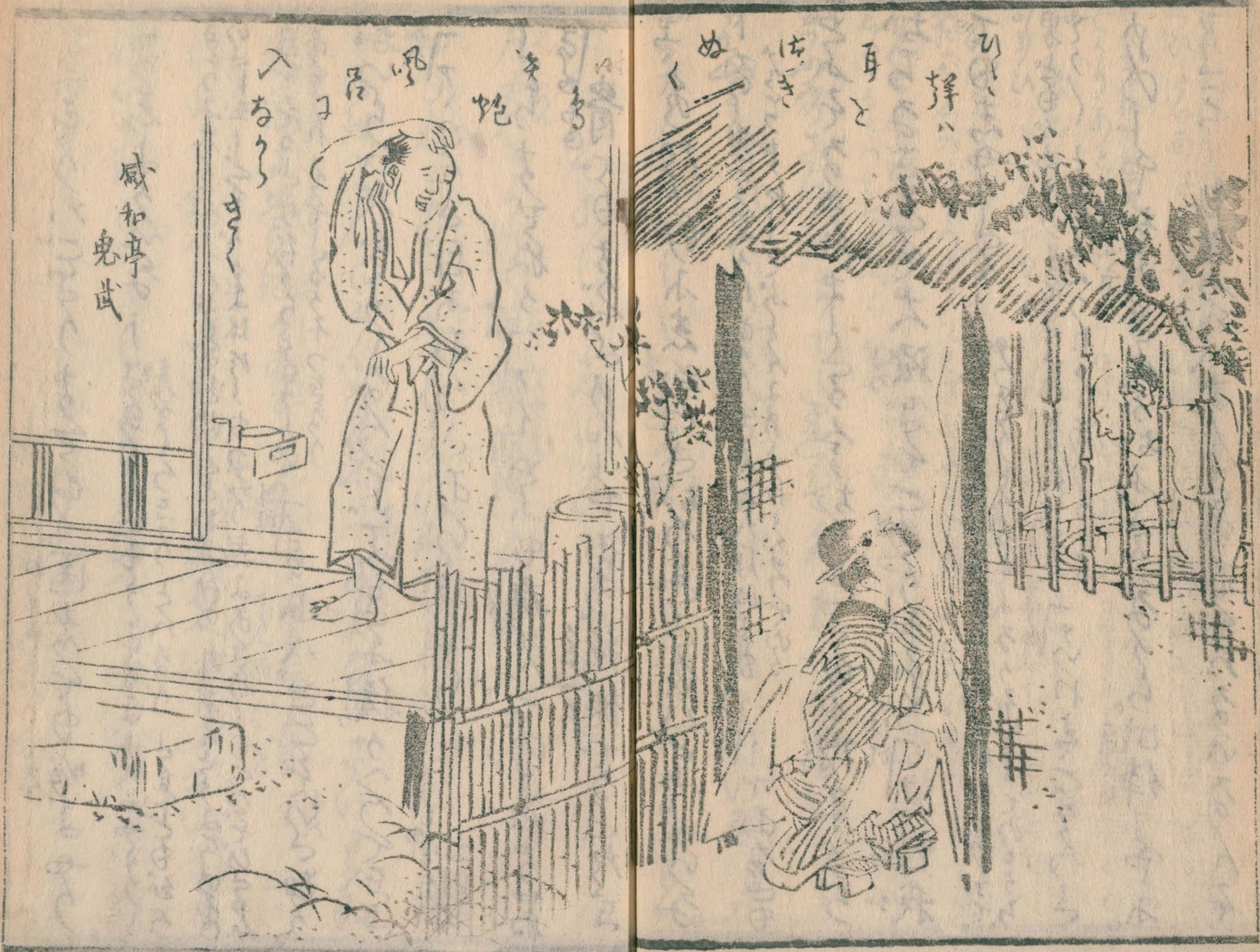
おめ入「あらめやく」なるもの来たさんせト
今おめ入が中であ
め入自異をあらせしてんせやうくら。マア湯ふ入を
来たさん「ト」は内まへハめあゆ「おめ入」は
はひらハトへ「おめ入」は「おめ入」の女はさううて
どこも「おめ入」女中。ナレト「おめ入」ふたを「おめ入」が「おめ入」
そつと来たてくは移る「おめ入」「おめ入」
「おめ入」「おめ入」「おめ入」
「おめ入」の「おめ入」且「おめ入」さんが「おめ入」
「おめ入」でけん「おめ入」「おめ入」それであ「おめ入」



りろど
及ぶのどきよ。コト
畜生め トおもひつゝあると女まじり
コト
且形がやうきくいらゝとがある。あゝらへ入るを乃
ハヤんとおらへ。且形があらふとつぎしてらふとらふ
らら。そとでつららか 疝病はきびょうをかきしてはききの男
たうら。且形と一匹いつぱいはやうてまふらて。ひとりひとり跡あと
残のこら。その時そらとまらへ。合あの物ものめらう孫
女むすめ。かうやの、トイヤサフトトヒトヤア 孫ひ孫兼かね知ちく
アサアちをあらあふら。うらとトト月つきのしも

あがりコトヤク ちつめ、何とてわるおとこのくさ
あつちやへいけんく。孫ひ孫のあなをのひお 孫ひ孫の 孫ひ孫の
おんやう日ひあつりそふでござうやうと。ハヤんへお彼
のやうまをよかへアイはききの男おとこか。是非ぜいはいありたがうそ
おまをらうらら。まはあらうマア おあふらととお 孫ひ孫トひ
うらとありておく。孫ひ孫のけ門かどてうづらうらありて、そのまう
折おかきするが、はらうらうらありて、そのまうをまらふらうのそ
うらありて、おまのひつぎあてあてのハヤんさんけのま
てのまとまていハヤんうらとせうつかり。あてまは、ひやうをおこして
あてまのまらんとおあひつぎしてうらうらありて、そのまのま
つれあやうらうらとまのひとあつらうらありて、そのまのま





威和亭
鬼武

入る
ちる
子
風
蛇
き
き

ひ
輝
耳
は
ぬ
く



骨継の療治（骨継）しごとざらあるらん（骨）の折（折）ま
のへ支方を継（継）合せて（合せ）入（入）まして（ま）焼（焼）ま（ま）つげ
かせうり（医）「そま（マ）の（マ）焼（焼）の（マ）で（マ）ざら（マ）。瀬戸おと
人間（人）ふちがひ（人）と「（人）の骨の（骨）ちま（マ）この（マ）
つげ（マ）ま（マ）は（マ）縁（マ）「（マ）づ（マ）と（マ）も（マ）く「（マ）わ（マ）ん（マ）も（マ）う（マ）ふ（マ）く
合（合）と（合）ら（合）ら（合）う（合）縁（合）「（合）ハ（合）テ（合）ち（合）ら（合）う（合）心（合）徳（合）授（合）ハ（合）継（合）木（合）と（合）ま（合）と（合）
ある（有）こと。柿（柿）の（柿）木（柿）の（柿）葉（柿）と（柿）梅（梅）で（梅）も（梅）梅（梅）を（梅）も（梅）切（切）口（口）と
合（合）せて（合）ま（合）ら（合）う（合）う（合）と（合）ま（合）ら（合）う（合）て（合）お（合）く（合）と（合）自（自）然（然）と（自）つ（自）け（自）
道（道）理（理）で（道）ござ（道）る（道）。「（道）ハ（道）「（道）継（道）木（道）と（道）ま（道）と（道）る（道）あ（道）れ（道）。す（道）時（道）候（道）が
あ（有）つ（有）て（有）お（有）ま（有）る（有）もの（有）の（有）人（有）の（有）怪（有）お（有）ら（有）ら（有）る（有）ん（有）ど（有）ま
ま（ま）ら（ま）ふ（ま）ら（ま）志（志）道（道）移（移）れ（移）もの（移）で（移）う（移）ら（移）。その（其）人（人）「（人）あ（人）れ
ま（ま）ら（ま）う（ま）の（ま）ま（ま）と（ま）め（ま）く（ま）「（ま）そ（ま）こ（ま）が（ま）ア（ま）ラ（ま）ウ（ま）ぢ（ま）で（ま）び（ま）び（ま）ら（ま）る（ま）の（ま）
「（マ）イ（マ）ヤ（マ）ク（マ）「（マ）ま（マ）の（マ）香（マ）込（マ）「（マ）や（マ）せ（マ）ぬ（マ）「（マ）ハ（マ）テ（マ）そ（マ）と（マ）め（マ）と（マ）ま（マ）
素（素）人（人）で（素）何（何）も（何）あ（何）ら（何）ぬ（何）ら（何）せ（何）ま（何）ち（何）ら（何）う（何）と（何）ざ（何）ら（何）な（何）「（何）ナ（何）ニ
ち（ち）ら（ち）う（ち）と（ち）ざ（ち）ら（ち）ら（ち）る（ち）ん（ち）の（ち）こ（ち）と（ち）び（ち）け（ち）教（教）医（医）者（者）め（者）が
「（カ）教（カ）医（カ）「（カ）古（カ）者（カ）ら（カ）あ（カ）ら（カ）う（カ）や（カ）ら（カ）う（カ）め（カ）「（カ）ハ（カ）エ

ソレのよふふくイヤもいじろく入るやうに。

「^ハそのふがーあつうのぜんとてうさるわうよさる

「^ハイヤののぢ^ハののぢもよさるおんお孫の采番

とつうあうよさるのふくかんどう。じろくそらー

うう。ぢよさるのぢ^ハなニおんよさるかみ

のふ新獲のまてのらぬ。務もふせんト^ハまのちよ

とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

「^ハイヤはまてぬ。

「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

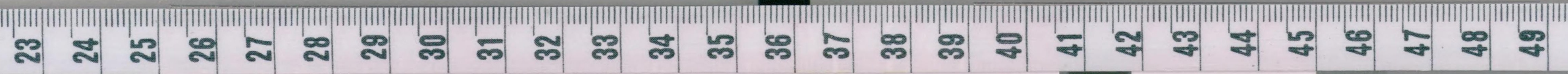
「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく

「^ハイヤはまてぬ。とつうあうよさるのぢ^ハコリヤヤイ。ぢよさるく



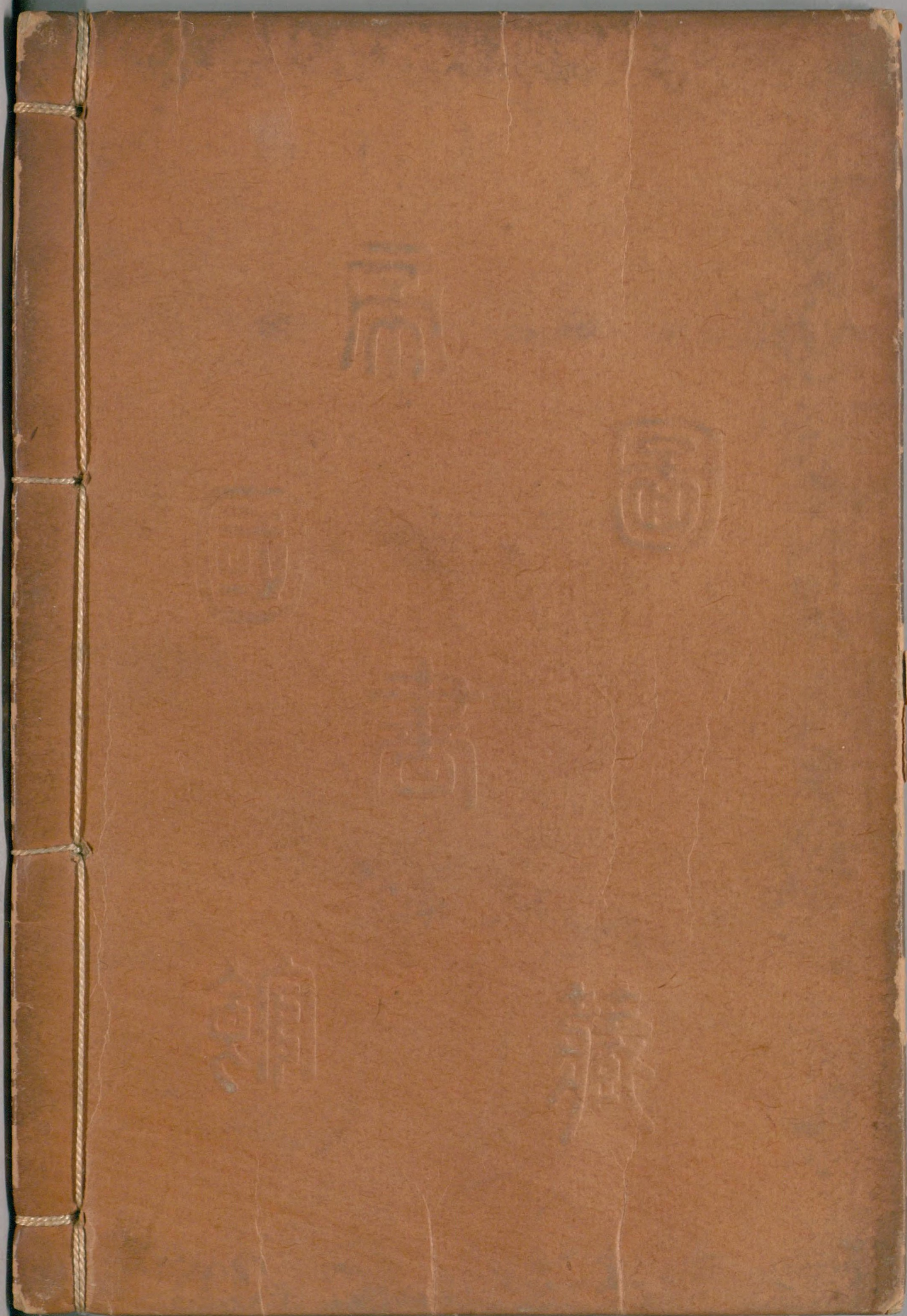
120
43
53



国立国会図書館

タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用



国立国会図書館

タイトル『道中膝栗毛 8編続12編』 請求記号 120-53

ガラス使用